

◆巻頭言

[これから『作業療法』に論文の投稿を検討されている方へ](#)・・・・・・・・・・太田 久晶 655

◆原著論文

[回復期片麻痺患者の上衣更衣自立到達期間に影響を及ぼす因子](#)・・・斉藤 良行・他 657

[訪問リハビリテーションにおける生活行為向上マネジメントを活用した介入効果](#)

—転倒恐怖感と生活活動の変化に着目して—・・・・・・・・・・伊藤 竜司・他 664

[脳卒中後上肢麻痺における急性期の傾向スコアデータプールの構築](#)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・徳田 和宏・他 673

[脳卒中後上肢麻痺における回復期の傾向スコアデータプールの構築](#)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・石垣 賢和・他 689

[ポジティブ作業に根ざした実践の介入に影響を与える要因の検討](#)・・野口 卓也・他 704

[地域診断を用いた授業の前後認識からみた教育効果の検証](#)

—対応分析による学生個人の認識の比較から—・・・・・・・・・・赤堀 将孝・他 715

[精神科作業療法の観察評価からみる青年・成人期の自閉スペクトラム症の行動特性](#)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・飯田 妙子・他 725

◆実践報告

[リストバンド型活動量計を用いた継続的な上肢活動量計測によって日常生活における麻痺手使用が促進された脳梗塞後右片麻痺の1例](#)・・・・・・・・・・勝山 美海・他 733

[回復期脳卒中患者2事例におけるmodified constraint-induced movement therapy \(mCI療法\) 後1年間の上肢機能の経過](#)・・・・・・・・・・平田 篤志・他 742

[回復期に両片麻痺を生じた多発性脳梗塞患者に対する複合的なアプローチ \(CI療法, 装具療法, 電気刺激療法, ロボット療法\) を実施した一例](#)・・・・・・・・堀 翔平・他 749

[急性期脳卒中後の上肢麻痺に対する複合的な上肢集中練習の長期経過](#)

—ケースシリーズ—・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・小淵 浩平・他 757

◆短報

[日本語版職業リハビリテーション質問紙 \(WORQ・J\) の作成](#)

～言語的妥当性の検討～・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・牧 利恵・他 765

編集後記

▶当然ながら本誌は各論文からなる一つの雑誌である。論文が掲載に至るまでは辛いこともあるが、掲載されると嬉しい。ただ、完全に出来たと思う論文はまれであり、どこかに不全感が残る。それが次の研究へとつながる原動力にもなる。

また、論文は一つの表現でもある。表現である限り、西田幾多郎の言葉を借りると歴史的とも言える。西田哲学に「一即多」、「多即一」というのがある。仏教用語でもある。厳密には違いかもしれないが「部分と全体」というシステム論的な用語も浮かぶ。「作られたものから作るものへ」という西田の生命論的物言いも浮かんでくる。もちろんアリストテレスの「制作（ポイエーシス）」からの着想と思われるが、本誌を理解する一つの見方かもしれない。

(Y・I)

▶本号は第 39 巻の最終号である。つまり、それは 2020 年の締めくくりを意味する。今年子どもから高齢者に至るまで、きわめて多くの人々に作業剥奪が起こり、慣れ親しんだ作業を止めたり、実施方法の変更が迫られたりしたことだろう。とりわけ、行動範囲が広く、活発に動いていた人ほど、強く行動変容が求められたように感じる。その中で生じた「新しい日常」の過ごし方について、作業療法の観点から量的、質的に検討することの意義は大きい。本年、学術誌『作業療法』では、これまでにない数の新規投稿を受け付けた。この勢いのままに、2021 年には「新しい日常」（あるいはアフターコロナ）における、より良い生活を可能にする研究成果の投稿が増えることを期待している。

(K・Y)